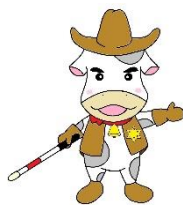


弱視学級

サポートだより



No. 4 2024.2

発行：視覚支援センター
(山形盲学校 内)

TEL. 023-672-4116

文責：井上、越谷、田中

充実した校外学習・学校行事にするために

今年度最終号では、校外学習や学校行事に出かける際の計画や準備のポイント、当日の配慮点について紹介したいと思います。

1. 事前準備

【場所の選定・打ち合わせ時のポイント】

- ・実物や模型を触ったり、映像や音声を見聞きしたりできる展示物があるか。また、体験できる活動はあるか。
- ・単眼鏡やタブレット端末、ICレコーダーなどの録音機器が使用できるか。
- ・児童生徒の見え方に応じて、施設内の明るさや暗さ、屋外の場合は、足元の状況や障害物がないかを確認する。

じっくり観察したり話を聞いたりできるように、目的を絞り、時間に余裕をもった計画を立てましょう。見学場所の下見に行ったり、施設の担当者と事前に打ち合わせをしたりすることも大切です。

2. 児童生徒との準備

(1) 学習の目的と見学場所の説明は具体的に伝える。

必要があれば、写真を提示したり、地図や館内図、パンフレットなどから、必要な情報を取り出したりして伝える。

(2) 具体的にどのような場面で困るのか・配慮がいるのかを話し合う。

弱視の場合、視野の状態や暗さ、まぶしさ等に配慮する。例えば、遠足などで、段差や足元が不安定な道、急に明暗が変わる場所では手引き歩行をする。盲の場合、段差や障害物をどう伝えるか、手引き歩行の基本や防御姿勢の確認をする。

普段から様々な場面（バスや電車の乗り降り、駅ホームでの歩行、狭所歩行、エレベーターやエスカレーターの乗り降りなど）を想定した歩行練習ができるといいですね。



(3) 持ち物について

- ・「必要なものが取り出しやすく両手が空く」が基本。
- ・単眼鏡やタブレット端末などで手が塞がるときは、首掛けストラップやクリップボードを活用する。
- ・財布や障害者手帳は、ショルダーバッグやリュックなど、すぐに取り出しやすくきちんと口が閉まる鞆に入れる。
- ・屋外の活動が多いときは、つば付きの帽子や遮光眼鏡を用意する。
- ・雨天時、特に手引きでの移動時は、傘よりカッパが安全。



(4)記録の仕方

点字盤を使う場合、児童生徒の実態に合わせて、立ったままメモをとれるように練習しておく。また、その場では体験を優先して、見聞きしたことや考え、感想はタブレットや IC レコーダーに録音しておき、後で聞き直して文章にまとめるという方法もある。目的に応じて、タブレット等で映像を残すのも有効。

3. 当日

・必要に応じて、周囲の状況を説明する。ただ、見たまますべてを説明すると、聞く側も疲れてしまう。どの程度の説明があるか、どんなことを知りたいか、事前に確認することが大切。

支援者側も、「具体的に分かりやすく」伝えたり説明したりする力を付けていきましょう。



- ・見る聞く触る時間を十分に確保する。一瞬で全体像を把握できる視覚と違い、触ったり、見えにくさのある中で見ようとしたりすることには、十分な時間が必要。
- ・集団で活動する場合、見やすい、聞き取りやすい位置に移動する。
- ・支援者がその場を離れるときは、必ず一声かける。また、何も無い場所に取り残されると不安なので、壁や柱、椅子などで待機させる。

4. 宿泊を伴う行事の場合

・緊急時に、児童生徒が一人でも避難できるように、非常階段などの避難経路に近い部屋や低層階の部屋を予約する。また、部屋に着いたら、一緒に歩いて避難経路を確認する。一人での避難が難しい場合は、支援者と一緒に手引きで避難できるように配慮する。

盲学校では、これまで県内外の様々な場所に校外学習に行っています。行き先や活動内容などでお困りの際はぜひお問い合わせください。また、「ここがよかった」という施設や場所などの情報交換ができると嬉しいです。